
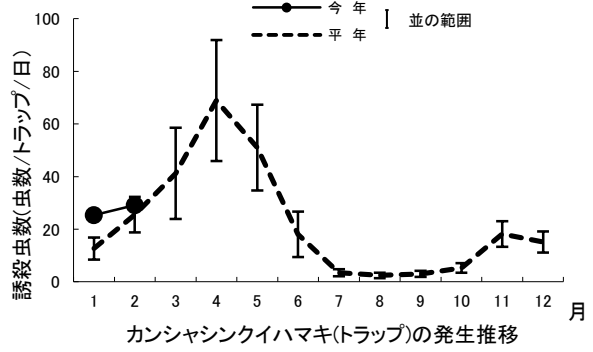
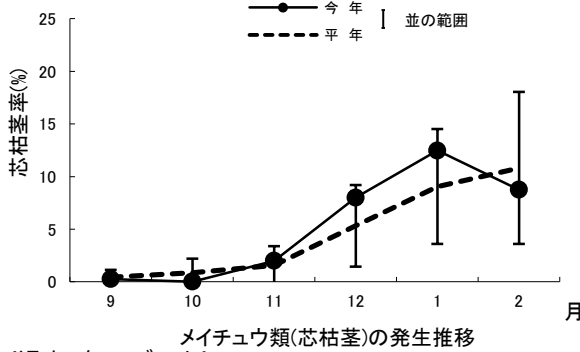


作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
2月の発生量 (現況)	並		
3月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	誘殺虫数の平年の発生推移から、2月より発生量は増加すると考えられる。		

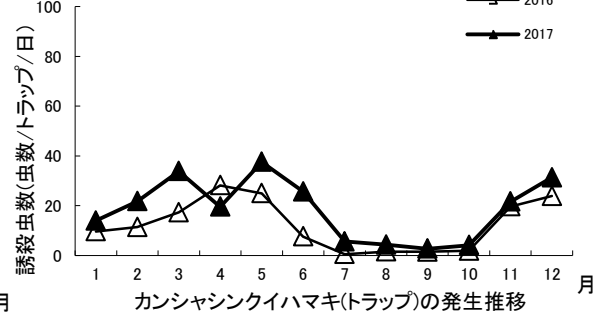
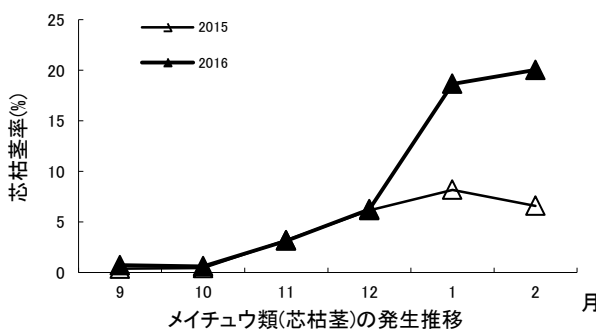
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 2月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯莖率は8.8% (前年20.0%、平年10.8%) と平年並であった。
- ・ 2月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は29.1頭 (前年21.8頭、平年25.5頭) と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

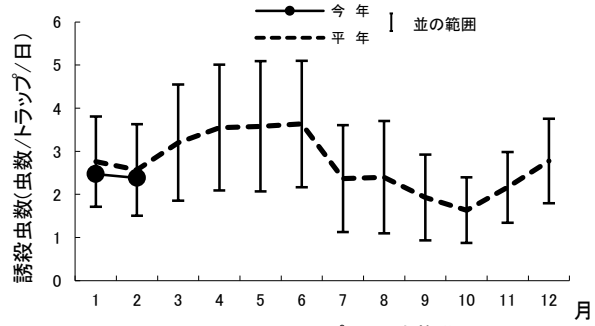
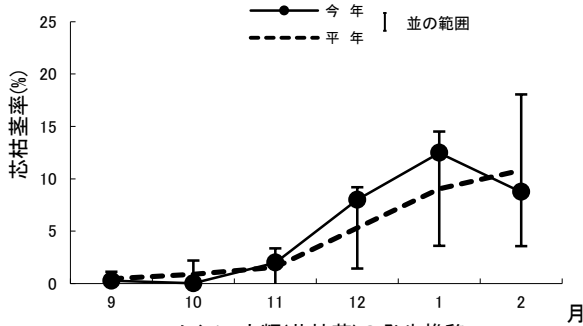
- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ莖を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効莖を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、莖と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	② メイチュウ類 (イネヨトウ)		
2月の発生量 (現況)	並		
3月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	誘殺虫数の平年の発生推移から、2月より発生量は増加すると考えられる。		

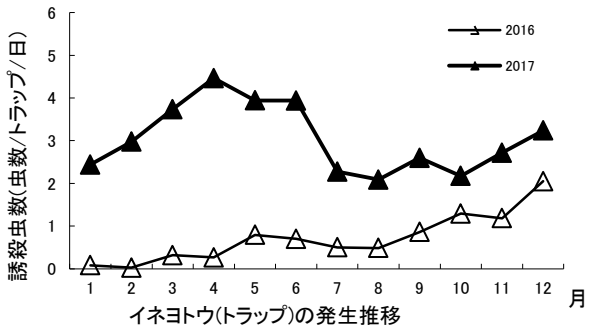
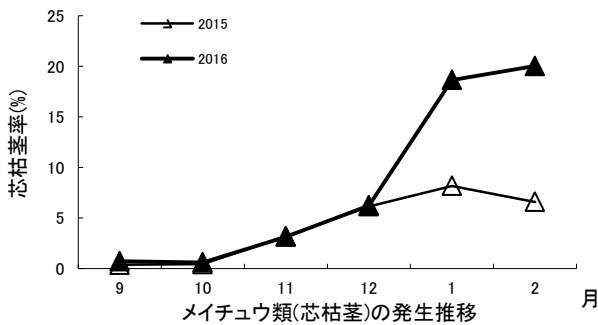
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 2月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯莖率は8.8% (前年20.0%、平年10.8%) と平年並であった。また、芯枯莖切開調査の結果、確認された幼虫のうち86.4%が本種であった。
- ・ 2月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は2.4頭 (前年3.0頭、平年2.6頭) と平年並であった。

(今年のデータ)




メイチュウ類(芯枯莖)の発生推移 (過去2年のデータ)



防除のポイント

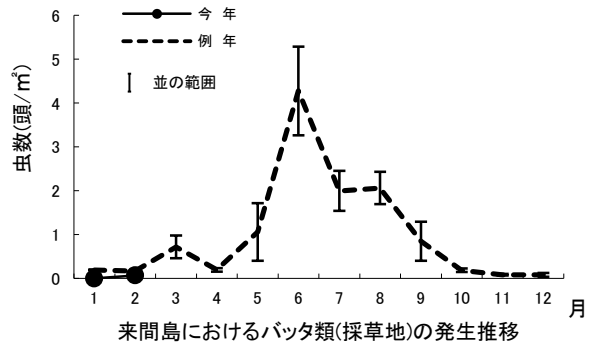
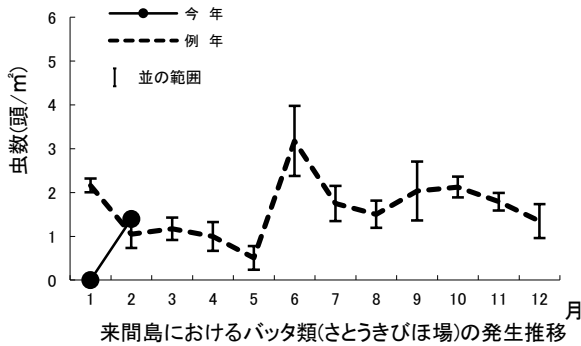
- ・ 卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ莖を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効莖を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、莖と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時、培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	バッタ類		
2月の発生量（現況）		判定不可	
3月の増減傾向		→	
増減傾向の根拠		来間島のさとうきびほ場における成虫数の例年の発生推移から、2月と同程度の発生量と考えられる。	

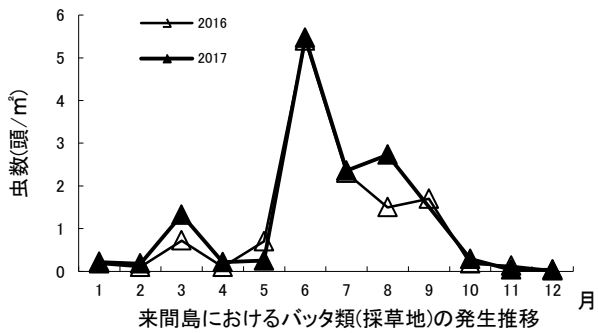
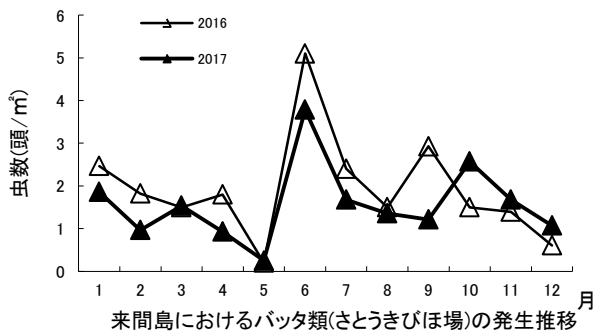
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 2月下旬の来間島での調査の結果、さとうきびほ場、採草地の平方メートル当たり虫数はそれぞれ、1.4頭、0.1頭であり、発生種は台湾ツチイナゴであった。

（今年のデータ）



（過去2年のデータ）



防除のポイント

- ・ 発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。
- ・ 成虫防除を実施する場合には、活動の鈍い早朝に一斉防除を行うと効果的である。